

**カノン設計室／
カノン登記測量**
(東伯郡琴浦町)

代表者

安谷潔美さん (59才)

一級建築士

土地家屋調査士



**気遣い心配りと感性は女性
の強み。**

**コミュニケーション能力は
現場をプラス思考に。**

★キャリア形成

地元の高校を卒業後、事務職として一年弱働きました。あの頃は男性と女性の賃金に格差があって、結婚後は臨時職員か寿退社が一般的でした。

資格があれば、結婚した後も働けると思いましたので、建築士になるため退職し、専門学校へ入学しました。

卒業後は、地元の設計事務所で実務経験を積み、41歳の時、一級建築士を取得しました。独立起業して16年が経ちます。

そして今年、土地家屋調査士を取得しました。県内で女性の有資格者がいないことを知り、土地の境界争いや、空き家対策など、女性だから出来ることがあるはず、災害時の復興に役立ちたいと願い、チャレンジしました。

★地域防災への取組み

鳥取県西部地震を契機に、女性建築士の仲間防災の勉強をはじめました。その中で「DIG (災害図上訓練)」の手法を学び、地域へと活動を広げています。

DIGは、地図に道や川などを色付けし、避難所や独居老人宅にマーキングすることで、上空から地域の弱点や、災害に弱い人の確認をします。その上で、避難ルートの確認や、日ごろの備えや災害発生時の対応など、防災力を高め、自助、共助の大切さを学びます。

また、近年増加する災害に対して「HUG (避難所運営ゲーム)」も行い始めました。避難所運営について疑似体験してもらい、運営には地域の力が必要である事、二次災害にならないよう、ワークショップを実施しています。

防災は1人の100歩よりも100人の1歩が大切と伝え、これからも防災アドバイザーとして地域の防災活動に関わっていきたいと思います。

★仕事の魅力ややりがいを感じるとき

建築士は、施主の夢を叶える仕事です。お話を聞いて図面を描き、夢を実現していきます。完成した時、喜んでいただけることが対価だと思っています。

最後に、わたしが心がけていることをご紹介します。

① 性格が人生をつくる。② 努力が必要、学んだ知識は財産。③ 世の中の人に役立つ人間に。

これからも、建築士、土地家屋調査士、防災アドバイザーとして人との繋がりを大切にしながら、社会に貢献していきたいと思います。

